

子どもたちにときめきを

丸亀支部 平田 貴久（教育・昭和 57 年卒）

小学生の好きな番組の一つで、NHKの「チョコちゃんに叱られる」があります。普段は気に止めていないけど、言われてみると理由が分からないことを、面白おかしく解説してくれるのが楽しくてよく見えています。この番組の中で、「大人になって振り返ると、小学校時代が長かったと感じるのはどうしてでしょう」という質問がありました。その答えは「小学校時代は、ときめきが多かったから」というものでした。確かに小学校教員時代の子ども様子を思い浮かべてみると、持久走大会の終了後にキャラメルを1個配ると、歓声が上がったり、水泳学習の最後の5分を自由練習にすると喜々として水遊びをしたりしていました。大人になると、ときめかないことも、子どもたちはときめいて、その記憶が重なって時間が長く感じるようです。

そんなときめくような体験をさせたくて、校長になったらしてみたい行事がありました。東京のある小学校で実践していた「わくわく学校」というものです。「わくわく学校」は、夏休みに、校区の大人たちや希望する先生方が、子どもたちに経験させたいことをボランティアで講座を開くというものです。子どもたちは、希望してもしなくてもいいし、何講座希望してもかまいません。

ある保護者は自分の歯科医院を午前中休診にして、歯医者さん体験の講座を、樹木医さんは、樹木の話と箱庭作りの講座を開いてくれました。他にもバルーンアートや模型飛行機作り、ソフトバレーボール、琴の講座など毎年10余りの講座がありました。私は手作りうどんの講座をさせてもらいました。粉から2時間でコシのあるうどんが食べられることを子どもたちに体験させたかったのです。このうどん作りには、毎年全校生の半分くらい（200人余り）の希望者がいました。参加費は50円です。大人になったとき香川県出身であるということが分かると、コシのあるうどんの話題になると思います。そんなとき、「参加費50円で、腹一杯コシのある本場のうどんが食べられるよ」と言って、わいわい言いながらうどんづくりができれば、楽しいし、郷土に誇りが持てるのではないかと思いました。

校務が多忙の中、先生方には迷惑をかけたくなかつたので、講師の募集や子どもたちの希望の調整などすべての事務仕事をさせてもらいました。手前味噌になりますが、子どもたちや保護者に大変好評で、夏休みを楽しみにしているという声をよく聞かせてもらいました。

子どもたちは、この「わくわく学校」で、ときめく時間が持てたのではないかと思います。そして何より自分がときめく時間が持てたことが幸せなことでした。教師という職業は多忙ですが、それを凌駕する喜びのある職業でもあります。